

茅ヶ崎市 津波 ハザードマップ

CHIGASAKI CITY TSUNAMI HAZARD MAP



4 ハザードマップの使い方

[STEP1] 自宅付近の状況を確認する

自宅周辺の標高や基準水位、津波到達時間を事前に確認します。

[STEP2] 避難先を決める

避難先は、避難対象地域内に長時間取り残されるなどのリスクを避けるため、原則として「避難対象地域外へ出ることを」優先して決めます。しかし、浸水が始まるまでに「避難対象地域外へ出ること」が困難な場合は、避難対象地域内の津波避難ビルなど高い場所を避します。日ごろのうちに、津波到達時間を目安に、避難先になど居るまでの移動距離と所要時間を確認し、いざというときの避難先を事前に考えておきます。



[STEP3] 避難経路を決める

避難経路は、地下道や地震時に家屋倒壊により通行不可能ななどのある場所など、危険な箇所を避けて決めます。最短経路だけでなく、複数の経路を考えたことが重要です。



[STEP4] 避難行動を確認する

実際に避難経路を歩いてみて、危険な箇所が無いか、夜に停電しても通れるかなどを家族や知人などと一緒に確認しておきます。



1 はじめに

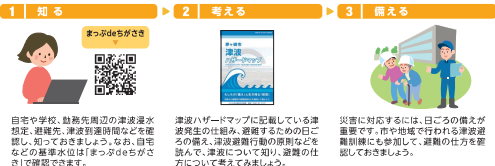
自助・共助・公助の取組

防災・減災対策の基本は、自分や家族の命を守る「自助」、地域で助け合う「共助」、行政が取り組む「公助」をバランスよく高めることです。防災力の向上には、皆さる一人一人の防災意識を高めることが必要です。

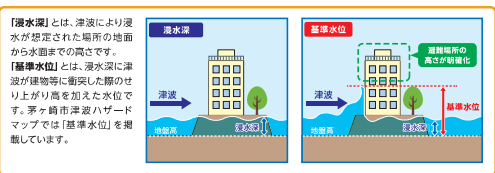


津波に備える

津波ハザードマップでは、地震により起こる津波の浸水範囲や高さ、避難先などを地図上に示しています。もしものときに少しでも被害を軽減できるよう、日ごろから想定される災害と被害を知り、対策を考え、できることから取り組みましょう。



浸水深・基準水位とは

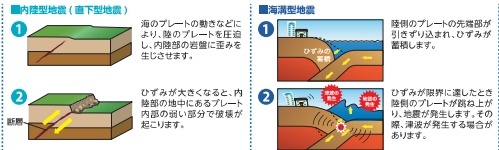


2 地震の種類や津波の特徴

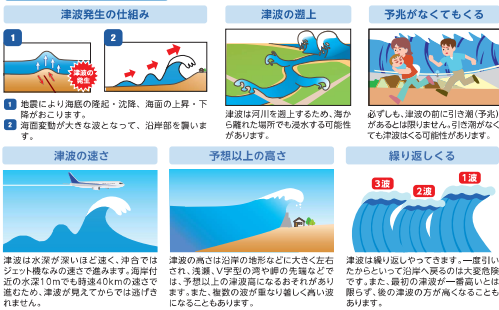
地震の種類



地震発生仕組み



津波発生仕組みと特徴



6 津波避難の心得

避難するための日ごろの備え

地震の揺れにより、建物の被害や家具の転倒などが発生すると避難が難しくなります。建物の耐震補強や家具の転倒防止といった揺れに対する事前の備えを行い、揺れが起きた後に「ただちに避難するための逃げ道」を確保できるよう対策に取り組みましょう。

津波発生情報を見聞きしたら迷わず避難

地震の震源域が近く震れている場合、地震の揺れを感じていないのに、大津波警報や津波警報が発せられることがあります。大津波警報や津波警報を確認したら、すぐに避難しましょう。避難した後は、津波に関する情報を確認し、安全な場所から離れないようにしましょう。

より早く、高く、速くへ避難

津波の浸水深が30cm程度でも揺れが強いと命を奪われてしまいます。津波から避難するときは、想定にとらわれず、可能な限り、より早く、高く、速く避難しましょう。周りの人々に声をかけながら、率先して避難することが大切です。

原則、徒歩で避難

車での避難は、地震による道路の損傷、建物の倒壊などの影響を受けるほか、渋滞により身動きがとれなくなると避難が遅れてしまう可能性があります。また、徒歩避難者の円滑かつ安全な避難の妨げとなるため、車ではなく徒歩で避難しましょう。

3 ハザードマップの想定の基となる地震と津波

想定される地震と震源域

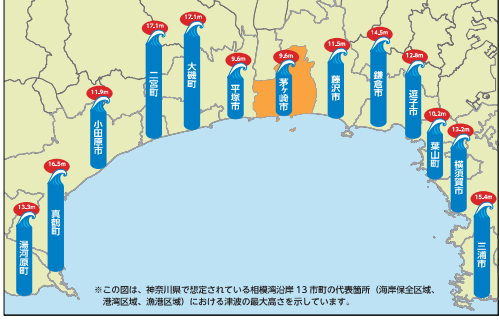


想定地震の概要				
①相模トラフ沿いの海溝型地震 (西側モザイク)	②相模トラフ沿いの海溝型地震 (中央モザイク)	③元禄関東地震タイプと類似する巨大地震 (東側モザイク)	④元禄関東地震タイプと類似する巨大地震 (東側モザイク)	⑤型別型地震
Mw=6.7	Mw=6.7	Mw=6.5	Mw=6.5	Mw=6.5
最大津波到達時間	17分 (8.6m)	16分 (9.6m)	7分 (7.1m)	52分 (7.2m)

想定地震の概要には、茅ヶ崎市の沿岸で想定される津波の高さが最大となる到達時間 (高さ) を記載しています。

相模湾沿岸で想定される津波の最大高さ

一言に「津波」といっても、想定する津波の高さは地域によっても異なります。相模湾沿岸で想定される津波の最大高さは次のとおりです。



7 津波避難行動の原則と防災情報の入手先

津波避難行動の原則



防災情報の収集

